

ゆとろぎ de クラシック 「華麗に新年を祝う」

New Year Concert 2008

ニューイヤーコンサート2008

平成20年1月6日(日) 午後2時開場／2時30分開演

会 場：羽村市生涯学習センターゆとろぎ大ホール

出 演：新日本フィルハーモニー交響楽団

指 挥：渡邊 一正

入場料：一般／(前売り)4,000円・(当日)4,500円

高校生以下／(前売り)3,000円・(当日)3,500円

プレ・コンサート(2回)とのお得なセット券5,000円



【曲目】

喜歌劇「こうもり」序曲

ワルツ「芸術家の生活」

トリッチ・トラッチ・ポルカ

ワルツ「金と銀」

「無窮動」

ポルカ「クラップフェンの森で」

アンネン・ポルカ

シャンパン・ポルカ

ワルツ「美しき青きドナウ」

ほか

※都合により曲目・曲順が変更になる場合がございます。
ご了承ください。

フレ・コンサート

その1 弦楽四重奏～優雅なティータイム・クラシック～

11月24日(土) 午後2時開演

演 奏：新日本フィルハーモニー交響楽団メンバーによる弦楽四重奏団

会 場：羽村市生涯学習センターゆとろぎ小ホール

入場料：1,000円

その2 金管五重奏～フラスハーモニー in クリスマス～

12月21日(金) 午後7時開演

演 奏：新日本フィルハーモニー交響楽団メンバーによる金管五重奏団

会 場：羽村市生涯学習センターゆとろぎ小ホール

入場料：1,000円

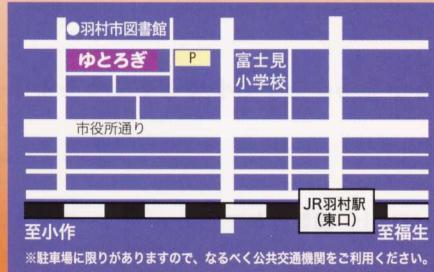
チケット取扱所

【ゆとろぎチケットカウンター】
午前9時～午後5時／月曜休館日を除く
TEL. 042-570-0707

【羽村市スポーツセンター】
午前9時～午後5時／月曜休館日を除く
TEL. 042-570-0033

【マルフジ各店】
羽村、瑞穂、青梅地区

【西多摩新聞チケットサービス】
フリーダイヤル 0120-61-3737



主催 羽村市教育委員会
企画・運営 ゆとろぎ協働事業運営市民の会
お問い合わせ 羽村市生涯学習センターゆとろぎ

Tel. 042-570-0707 <http://www.hamura-tokyo.jp>

※3回とも未就学児の入場はお断りします。各回とも一時保育があります。(1回1人700円／1歳6か月～未就学児／定員先着15名／各回の1週間前まで受付)



指揮 渡邊一正 Kazumasa Watanabe (Conductor)

東京生まれ。1991年東京フィルハーモニー交響楽団を指揮してデビュー。1996年からは東京フィルハーモニー交響楽団の指揮者に就任し、現在に至る。また1995年から2002年まで広島交響楽団正指揮者も歴任。1998年にはNHK交響楽団の指揮台に初登場し、それ以後オーチャード定期（2003年）、NHKホール定期（2006年）を始めN響とは定期的に共演を重ねている。2000年には第69回日本音楽コンクール作曲部門本選会の演奏に対しコンクール委員会特別賞を贈られる（オーケストラ：東京交響楽団）。その他の日本国内のオーケストラとは読売日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団を始め主要なオーケストラに定期的な客演を行ない、各方面よりその音楽性と指揮に対する信頼を確実に得ている。

オペラ、バレエでの活躍も目覚しく、新国立劇場でマスカーニ歌劇「友人フリツ」を、同劇場バレエ団では「白鳥の湖」「くるみ割り人形」「ドン・キホーテ」などを指揮し、2006年11月には「白鳥の湖」の新演出の指揮も行い、大成功を収めた。

また彼の指揮活動は国内だけにとどまらず、海外でも2003／04年シーズンにはサンクトペテルブルグ交響楽団の定期演奏会に客演するなど、確実にキャリアを積んでいる。

またピアニストとしても8歳の時に東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団とハイドンのピアノ協奏曲を協演。87年から89年には渡欧し、ダルムシュタット音楽アカデミー、ハンス・ライグラフ教授のマスター・クラスでピアノを学ぶ。その後東京フィル定期、広島交響楽団定期、大阪フィル、札幌交響楽団などのオーケストラと、ベートーヴェンのピアノ協奏曲第3番、第5番「皇帝」、ラヴェル、モーツアルト、ガーシュウィンなどの弾き振りを含むプログラムを行なうなど、ピアニストとしての才能も多方面から評価されている。



新日本フィルハーモニー交響楽団

1972年、指揮者・小澤征爾のもと楽員による自主運営のオーケストラとして創立。以来優れた企画と充実した演奏で好評を得ており、1985年には欧州公演を行い、成功を収めた。

定期演奏会では、声楽・舞台作品や近現代作品の重視等で独自の路線を歩み、小澤征爾オペラ・シリーズ、カザルスホールでの「室内オーケストラ・シリーズ」等で注目を集めてきた。

1997年より「すみだトリフォニーホール」を活動の本拠地とし、同ホールのステージで日常の練習と公演を行うという日本初の本格的フランチャイズを導入。その後開催されたロストロポーヴィチによる「ショスタコーヴィチ・フェスティヴァル」（1998年）や井上道義の指揮による「マーラー・ツィクリス～交響曲全曲演奏会～」（1999～2000年）などでは非常に高い評価を得ている。また1998年には小澤とロストロポーヴィチの指揮でロシア公演を行なう日露の親善に務めた。

現在は、すみだトリフォニーホールとサントリーホールで定期演奏会を行い、また数々の特別演奏会のほか、地元の学校体育館でのコミュニティ・コンサート、小中学校の音楽授業や各種施設を訪れるミニ・コンサートなどで地域に根ざした演奏活動も行っている。

2003年9月、音楽監督として1971年生まれのクリスティアン・アルミンクが就任。若手指揮者の異例の抜擢として音楽界の注目を集めた。

2004年5月にはスペイン公演を行い、現地でも高い評価を得た。また同年夏からは音楽家・久石譲と組み、新プロジェクト“新日本フィル・ワールド・ドリーム・オーケストラ”を立ち上げ注目を集めている。

2005年には、音楽監督アルミンクとともに、ベートーヴェンの歌劇『レオノーレ』を日本初演するなど、意欲的な公演を続けている。

2006年2月、アルミンク指揮によりオネゲル作曲の劇的オラトリオ『火刑台上のジャンヌ・ダルク』をコンサート・オペラとして上演。新聞各紙で絶賛を浴び、第3回三菱信託音楽賞奨励賞を受賞するなど、高い評価を得ている。

今年3月には、ワーグナー作曲の歌劇『ローエングリン』を取り上げ、「音の綾を見事に表現した公演」として喝采を浴びた。

アルミンクとのレコーディングでは、『ブームス：交響曲第1番&マーラー：交響曲第3番』、『マーラー：交響曲第5番』『マーラー：交響曲「大地の歌」』『ベートーヴェン：交響曲第9番「合唱付」』がリリースされている。

2004年からは楽員による『室内楽シリーズ』も始め、東京のオーケストラの中で初めて本格的に取り組んだ楽員による室内楽の定期公演で、高い評価と人気を得ている。

公式HP：<http://www.njp.or.jp/> 公式モバイル・サイト：<http://njp-mobile.com/>



プレ・コンサート出演者

11月24日(土) ■新日本フィルハーモニー交響楽団メンバーによる弦楽四重奏団

ヴァイオリン：篠原英和 ヴァイオリン：稻垣桃子 ヴィオラ：原孝明 チェロ：山崎泉

12月21日(金) ■新日本フィルハーモニー交響楽団メンバーによる管弦五重奏団

トランペット：服部孝也 トランペット：市川和彦 ホルン：井手詩朗 トロンボーン：山口尚人 チューバ：佐藤和彦